

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 9 月 5 日現在

機関番号：82611

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2013～2015

課題番号：25871172

研究課題名(和文)わが国の大都市部における自殺未遂者の特性

研究課題名(英文)Characteristics of non-fatal suicide attempts in a metropolitan area in Japan

研究代表者

山内 貴史(Yamauchi, Takashi)

国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター・精神保健研究所自殺予防総合対策センター・研究員

研究者番号：10598808

交付決定額(研究期間全体):(直接経費) 2,100,000円

研究成果の概要(和文):本研究では、わが国の都市部における自殺未遂の実態およびその背景要因について明らかにするため、政令指定都市A市における2009年～2011年の自損行為による救急搬送の悉皆データベースを用いて分析した。自殺未遂による救急搬送事例の65%は女性、特に20～39歳の女性であった。男女ともに傷病程度の低い自損行為が多く、手段としては薬物・過量服薬および切傷が多くみられたが、これらの傾向は特に女性で顕著であった。身体疾患の既往歴は男性の事例でより多くみられた。一方、女性事例の80%、男性事例の約半数に精神疾患の既往歴が確認された。ただし、アルコール・物質使用障害のみは女性よりも男性で多くみられた。

研究成果の概要(英文): In this study, we investigated the characteristics of and background factors associated with non-fatal suicide attempts in a metropolitan area in Japan, using a database comprised of pre-hospital medical records concerning self-harm that occurred in a designated city between 2009 and 2011. About 65% of non-fatal suicide attempts occurred among women, particularly those aged 20 to 39 years. Most suicide attempts were low-lethality, with drugs and cutting being the most common methods, particularly among women. A history of physical illness was more prevalent in men than women. Approximately 80% of women and 55% of men reported a past history of mental illness. With the exception of substance use disorders, a history of mental illness was more prevalent in women than men.

研究分野：認知行動学

キーワード：自殺未遂 自損行為 自殺 救急 メディア 精神疾患

1. 研究開始当初の背景

自損(自傷)行為・自殺未遂歴は自殺の強い危険因子である。わが国においても、警察庁の自殺統計によると、2013年の自殺死亡者のうち未遂歴が確認された者の割合は女性で30.8%であり、男性の約2倍となっている。

わが国では、2012年8月に政府が推進すべき自殺対策の指針である「自殺総合対策大綱」の見直しが行われた。新大綱では「精神科救急医療体制の充実に加えて、救命救急センター等で治療を受けた自殺未遂者が必要に応じて精神科医療ケアや生活再建の支援が受けられる体制を整備する必要がある。また、自殺未遂者に対する相談体制の充実と自殺未遂者の家族等の身近な人への支援の充実も重要である」ことが明記された。

わが国における自損行為・自殺未遂に関する実態報告は医療機関ベースのものが多い。このような医療機関ベースの研究に対し、われわれは総務省消防庁や地方自治体の消防局から自損行為に関する救急搬送データの提供を受け、地域ベースでの自損行為・自殺未遂の実態把握を試みてきた。自損行為による救急搬送事例には、自殺既遂事例とともに自殺未遂事例が含まれる。しかしながら、自損行為・自殺未遂の手段や主要身体・精神疾患の既往といった、今後の自殺未遂者支援を考えるうえで示唆的と考えられる情報については提供資料に含まれていない状況であった。これらの情報を含む、地域、特に都市部の自損行為による救急搬送悉皆データを分析することにより、地域の自殺未遂の実態およびその背景要因としての主要精神・身体疾患の既往やメディア報道との関連を地域ベースで明らかにすることができると考えられた。

2. 研究の目的

本研究では、地域の実情に応じた自殺対策を推進するための基礎資料とするため、わが国の政令指定都市A市における救急活動記録票の悉皆データベースを用い、都市部における自殺未遂の実態、およびその背景要因としての主要精神・身体疾患の既往やメディア報道との関連を地域ベースで明らかにすることを目的とした。

3. 研究の方法

わが国の政令指定都市A市の消防局から、2009年1月～2011年12月までの3年間に同局管内で発生した自損行為に関する救急活動記録票の悉皆データベースの提供を受け、分析を実施した。この連結不可能匿名化されたデータベースに含まれる主要な項目は以下のとおりであった：発生年月日、転帰(死亡、未遂)、行政区、年齢区分、発生場所、性別、傷病程度、傷病名、主要身体・精神疾患の既往歴。

自損行為により管内で救急車が出動した

全事例のうち、救急隊によって医療機関に救急搬送され、かつ搬送時点で生存が確認された3,350事例を自殺未遂事例と定義して分析対象とした。また、対照として、救急出動現場で、もしくは搬送中・搬送後に死亡が確認された自損行為事例についても分析を行った。統計解析にはSAS 9.4を用いた。

なお、本研究の実施に当たり、国立精神・神経医療研究センター倫理委員会による承認を得た。

4. 研究成果

自殺未遂による救急搬送事例の65%は女性、特に20～39歳の女性であった。男女ともに傷病程度の低い自損行為が多く、手段としては薬物・過量服薬および切傷が多くみられたが、これらの傾向は特に女性で顕著であった。なお、重篤・重症事例は、男性、および60歳以上の者で多かった。また、重篤・重症事例では縊首、飛び降り、焼身などによる自殺未遂が多かった。自殺企図は同一の手段で繰り返されることが多いことが指摘されており、致死性の高い手段を用いた男性未遂者の見守り・支援が重要であると考えられた。

疾患の既往については、身体疾患の既往歴は男性の事例でより多くみられた。一方、女性事例の80%、男性事例の約半数に精神疾患の既往歴が確認された。ただし、アルコール・物質使用障害のみは女性よりも男性で多くみられた。特に女性の自殺企図者に対しては、本人の見守り・支援とともに、家族などのキーパーソンに対する精神疾患についての心理教育や、救急医療機関退院後の適切な支援・社会資源へのつなぎおよびモニタリング、ならびにそれを可能にする人材の育成・確保が今後の自殺未遂者支援における課題であると考えられた。

また、新聞など公的メディアにおける自殺関連の報道と自殺未遂との関連を分析した結果、2011年5月に、女性、および精神疾患の既往歴のある層における自殺未遂事例数が前月比・前年同月比で増加していた。その一方で、自殺未遂事例全体で見た場合には、2011年5月における搬送事例数の前月比・前年同月比での増加はみられなかった。これらの結果から、2011年3月に発生した東日本大震災の影響などを考慮する必要はあるものの、著名人の自殺に関する大々的な報道が自殺企図のリスク、および女性や精神疾患の既往歴のある層における自殺未遂のリスクを高める背景要因のひとつである可能性が示唆された。

地域で発生した自損行為・自殺未遂に関する悉皆データを分析した本研究の成果は、わが国の都市部の自殺未遂の実態、とりわけ自殺企図の手段や、身体・精神疾患の既往およびメディア報道といった背景要因を明らかにすることにより、今後の自殺未遂者支援の推進に寄与するものと考えられた。

5. 主な発表論文等
(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 14 件)

Yamauchi T, Inagaki M, Yonemoto N, Iwasaki M, Akechi T, Sawada N, Iso H, Noda M, Tsugane S. History of diabetes and risk of suicide and accidental death in Japan: the Japan Public Health Centre-based Prospective Study, 1990-2012. *Diabetes Metab.* In press. doi:10.1016/j.diabet.2015.11.008. (査読あり)

Suka M, Yamauchi T, Sugimori H. Help-seeking intentions for early signs of mental illness and their associated factors: comparison across four kinds of health problems. *BMC Public Health.* 2016;16:301. doi:10.1186/s12889-016-2998-9. (査読あり)

Suka M, Yamauchi T, Sugimori H. Relationship between individual characteristics, neighbourhood contexts and help-seeking intentions for mental illness. *BMJ Open.* 2015;5:e008261. doi:10.1136/bmjopen-2015-008261. (査読あり)

Takeshima T, Yamauchi T, Inagaki M, Kodaka M, Matsumoto T, Kawano K, Katsumata Y, Fujimori M, Hisanaga A, Takahashi Y. Suicide prevention strategies in Japan: a 15-year review (1998-2013). *J Public Health Pol.* 2015;36(1):52-66. doi:10.1057/jphp.2014.42. (査読あり)

Nakanishi M, Yamauchi T, Takeshima T. National strategy for suicide prevention in Japan: the impact of a national fund on the progress of developing systems for suicide prevention and implementing initiatives among local authorities. *Psychiatry Clin Neurosci.* 2015;69:55-64. doi:10.1111/pcn.12222. (査読あり)

Yamauchi T, Inagaki M, Yonemoto N, Iwasaki M, Inoue M, Akechi T, Iso H, Tsugane S. Death by suicide and other externally-caused injuries following stroke in Japan (1990-2010): the Japan Public Health Center-based Prospective Study. *Psychosom Med.* 2014;76(6):452-9. doi:10.1097/PSY.000000000000079. (査読あり)

Yamauchi T, Inagaki M, Yonemoto N, Iwasaki M, Inoue M, Akechi T, Iso H,

Tsugane S. Death by suicide and other externally-caused injuries following a cancer diagnosis: the Japan Public Health Center-based Prospective Study. *Psychooncology.* 2014;23(9):1034-41. doi:10.1002/pon.3529. (査読あり)

Yamauchi T, Fujita T, Tachimori H, Takeshima T, Inagaki M, Sudo A. Age-adjusted relative suicide risk by marital and employment status over the past 25 years in Japan. *J Public Health.* 2013;35(1):49-56. doi:10.1093/pubmed/fds054. (査読あり)

[学会発表](計 26 件)

Yamauchi T. Epidemiology of suicidal behavior in Japan. World Suicide Report Regional Launch Event, Tokyo, Japan, December 1-2, 2015. (国立精神・神経医療研究センター、東京都小平市)

Yamauchi T, Takeshima T. Epidemiological studies on fatal/non-fatal suicidal behavior and suicide prevention policy in Japan. In: Symposium "Mental health epidemiology for policy development regarding mental health issues". World Psychiatric Association (WPA) Regional Congress Osaka Japan 2015, Osaka, Japan, June 4-6, 2015. (リーガロイヤルホテル大阪、大阪府大阪市)

Yamauchi T, Takeshima T. Epidemiology of suicide and development of suicide prevention policies in Japan. In: Symposium S29 "Suicide prevention". The 5th World Congress of Asian Psychiatry, Fukuoka, Japan, March 3-6, 2015. (九州大学、福岡県博多市)

Yamauchi T. Suicide epidemiology in Japan. In: Symposium 6: The role of epidemiology for the development of suicide prevention policy. WPA Section on Epidemiology and Public Health 2014 Meeting, Nara, Japan, October 16-18, 2014. (奈良公会堂、奈良県奈良市)

Yamauchi T. Activity report on the Media Conferences in Japan, 2011-2012. Second Meeting for the WHO World Suicide Report and Related Events, Tokyo, Japan, December 18, 2013. (国立精神・神経医療研究センター、東京都小平市)

Suka M, Yamauchi T, Tachimori H, Takeshima T. Suicide trends and geographical variations in Japan. 8th Conference of the Asian Regional Section of the International Association for Statistical Computing, Seoul, Korea, August 22-23, 2013.

(Seoul , South Korea)

〔図書〕(計 1 件)

山内貴史, 竹島 正. 自殺総合対策大綱
の改正. In: 精神保健福祉白書編集委員
会(編) 精神保健福祉白書 2014 年版.
東京: 中央法規出版. 2013: 22.

6. 研究組織

(1) 研究代表者

山内貴史 (YAMAUCHI, Takashi)
国立精神・神経医療研究センター精神保健
研究所 自殺総合対策推進センター 研究
員
研究者番号: 10598808